

XI-3 ゲーム・ボール運動分科会

藤生・中塚（高等学校） 國川（中学校） 岡出（大学） 眞榮里（小学校）（文責）

ゲーム・ボール運動領域分科会では、これまで行ったネット型（バレーボール）とゴール型（手でボールを操作するゲーム・サッカー）の提案授業をもとに各学校の実態と実践について発表した。議論の焦点が広がり過ぎないように、それぞれの型について協議を行った。前半をネット型、後半をゴール型の提案をそれぞれ行った。

ネット型について（過去2回合同研究会で取り上げられた）

1. 小学校の提案

小学校では、攻撃を中心にボール運動の学習を進めている。バレーボールでは、アタックの技能を高めることを中心に授業を進めた。アタックにつなげるために、セッターがキャッチをしてからトスを上げることやレシーブもキャッチすることを許容している。

小学生にとってボールを弾いてコントロールすることは非常に難しい。そのため、技能を絞って学習を進めている。

2. 中学校の提案

3段攻撃を目指した授業を展開した。その中でセッターがキャッチトスすることを許容することで、より確実に3段攻撃につなげていくことができた。生徒の中には、攻撃のスピードアップを図るために、キャッチを省いて直接トスを行うという姿もみることができた。

3. 高等学校の提案

12年間のまとめとしてバレーボールに取り組んだ。よりバレーボールらしいゲームを行えるようになることが目標であった。3段攻撃を含めて各技能を高めていくことで生涯スポーツとして楽しむことが目標である。

4. フロアーの先生方との協議

○どの年代で何を身につけさせるのか

○バレーボールで求めるものは「つなぐたのしさ」「アタックして点数を入れる楽しさ」どちらなのか

○学習内容によってボールの選定が変わってくるのでは。

ゴール型について

1. 小学校の提案

小学校はボールを蹴るという動作を身につけることを中心に学習を進めている。組み合わせて行った、鬼遊びでは、ゴール型のゲームにおける動き方を学習した。この2つの教材を通して蹴ることと相手に合わせて動くことを身につけていった。

2. 中学校の提案

2年生女子の授業。自分たちが持っている力でどのようなゲームであれば楽しむことができるか考えながら取り組んだ。ルールをどのように設定すればゲームが楽しめるかという点を学ばせた。

3. 高等学校の提案

生涯スポーツを見通したため、男女共習で行った。男女の違いを踏まえながらいかに楽しむことができるか。授業の中では、男子、女子、男女というように3つのパターンの試合を展開した。

4. フロアーの先生方との協議

○ボールを持たないときの動きをどのように習得させていくか。

○技能差が大きい集団をどのように指導しているのか。

○ボールを操作する技能はどのように身につけさせるか。